**説教20231112ミカ書3：5-12マタイ23：1-12「み言葉に養われる者」**

**日本基督教団の教職は、「先生」とか「教師」とか呼ばれていますので、今日のマタイの説教箇所は教職たちにとって少々耳に痛いかもしれません。しかしまことの教師であるイエス様は、全ての教職にある人たちに対しても、この戒めを告げられているのです。**

**イエスさまは、自分のそばにいた律法学者たちやファリサイ派の人々を念頭に置いて、群衆と弟子たちに次の様に語られました。**

**「彼らはモーセの座に着いている。だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見倣ってはならない。言うだけで、実行しないからである。」イエス様は、この様に、教師たちの有限不実行を指摘し、そのようにはなるなと群衆たちに諭されています。**

**「彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない。そのすることは、すべて人に見せるためである。聖句の入った小箱を大きくしたり、衣服の房を長くしたりする。」**

**イエスさまは、教師たちの怠慢と虚飾を指摘し、それに惑わされてだまされるなと群衆たちを励ましています。**

**「彼らは、宴会では上座、会堂では上席に座ることを好み、また、広場で挨拶されたり、『先生』と呼ばれたりすることを好む。」**

**イエスさまは、教師たちがおのれの虚栄心を満たすために生きていることをさらけ出して、群衆たちにその通りに語られました。**

**この様に、イエス様は教師である律法学者たちやファリサイ派の人々たちを、全ての人たちの前で、いわばけちょんけちょんに、こき下ろしたのでした。**

**律法学者たちやファリサイ派の人々と言うのは当時の社会において、正しい人であり、尊敬すべき人であり、また権力者でもありました。ですから、イエス様が全ての人に向かって大声でこんな風に説かれているのを彼らも又耳にしたとき、彼らは本当に怒り狂って、イエス様を殺そうとし始めたことも、又納得できることではあります。**

**何故イエスさまは、「あなたがたの師は一人だけ。あなたがたの教師はキリスト一人だけである。」と言われているのでしょうか。今日はこのイエス様の御言葉に深く聞いて参りたいと願います。**

**私たち人間は、本来、全ての人たちが御言葉に養われる者たちであります。御言葉を聞いて、御言葉に学んで、御言葉の通りに、従順に行っていく。このことこそ、私たちが生まれ変わって、永遠の命を取り戻し、祝福された生涯を送ることが出来るただ一つの道です。それでこの地上にあっては、イエス様の御言葉を語り教える、教師という者たちが建てられている訳ですが、その教師たちは、決して律法学者たちやファリサイ派の人々のようになってはいけないのです。すなわち教師たちは、有限不実行であってはならず、怠慢と虚飾であってはならず、虚栄心を満たすために生きてはならないということです。**

**言い訳ではありませんが、これらの戒めを完全に守り切れるのは、まことの教師であるイエス様お一人だけです。この世に建てられている全ての教師は、一人ひとりが何らかの欠けを抱えつつ、それでもイエス様から言われて、今日も講壇に立たされているのです。**

**そこに在ります、イエス様の許しに感謝しながら、自分の欠けを見つめ、自分が悔い改め打ち砕かれる心をお捧げしながら語って参りましょう。**

**有限不実行ではなく、怠慢と虚飾ではなく、虚栄心を満たすために生きていない、まことの教師に近い教師として、私の頭に浮かんだのは、ゴッホであります。ゴッホと言うのはあの有名な画家のゴッホです。ここで画家の話をなぜするかと批判されそうですが、実はゴッホはキリスト信仰に大変近い境遇にあった人です。彼の父親は牧師でありました。そして彼自身も青年のころ、牧師になる試験を受けて、その試験に受からず牧師になる道を断念したのちに、画家の道を歩み始めたという経緯があるのです。彼は最後は、キリストが戒めている自殺と言う道を選んでしまいましたが、そこには信仰とは何かを問うていたゴッホの必死さがあったのではないでしょうか。**

**とにかくゴッホの生涯と言うのは、将に日々身を削るような、必死の人生であったということは間違いないでしょう。ゴッホにとっては、有限不実行とか怠慢とか虚栄と言ったことは全く思いもよらない無縁の事柄だったと言っていいでしょう。**

**そんなゴッホはしかし、今に至るまで多くの人たちの教師になっています。絵を学ぶ人たちにとっては、残されたゴッホの絵から学ぶことは多いでしょう。ゴッホの絵の構図や筆遣いは、多くを物語り、今なお多くの人々がそこから学んでいることでしょう。**

**しかし、生前、ゴッホの絵はたった１枚しか売れませんでした。これはどういうことかと言いますと、ゴッホと言う人は、この地上では、売れない絵描きであり、社会的な評価とは縁がなく、まして教師としては認めらない人物だったのでした。**

**この様に、この地上では教師と呼ばれたことがない人が、その死後に、たくさんの人々の教師になっている、ということは、或る意味、イエス様が言われる、まことの教師像を示唆しているのではないでしょうか。**

**では次に学ぶ人である、生徒について黙想しましょう。私たちは全て、まことの教師であるイエス様の生徒でありますが、この地上で最も優れた生徒と言うのは誰でしょうか。それは幼子であります。幼子は教師を知るまでもなく、周りの親しい人たちから食べること、歩くこと、言葉をしゃべることを学び、時が来ればそれを自分のこととして行うようになります。イエス様は、私たち大人に対して、「心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない（マタイ18：3）」と言われましたが、イエス様は、私たちがこの世を去る時迄、幼子のような心を持ってイエス様から学び続けなさいということを言われているのです。**

**教師と生徒というのは、私たち人間の間で混じり合っています。時には生徒が、父親や母親として用いられ、子どもたちを教える立場にもなります。そして時には教師が、教師であることから降ろされて、又、然るべき学びの場で再教育をされるということもあるのです。私たちはこの地上にあってこの様に、教師としても不完全であり、又生徒としても不完全な存在であり続けるのです。イエス様が「あなたがたの師は一人だけ。あなたがたの教師はキリスト一人だけである。」と私たちに明言されている理由は、ここら辺にあるのでしょう。**

**又、イエス様は、この様に、教師としても生徒としても不完全である人間を、その通りに見て、受け入れて、理解しなさいと言われています。**

**この世の現実を見つめますと、私たちはとかく、イエス様以外に、まことの完全なる教師を求め、その人物にすがりついて、その人物が醸し出す権威に守られようとしてしまいます。固有名詞を出すことは控えますが、そのようにして、今の世におきましても、律法学者たちやファリサイ派の人々のような教師たちは生み出されてしまうのです。**

**律法学者たちやファリサイ派の人々のような教師たちはどうして生み出されてしまうのでしょうか。それは、次の聖書箇所を見てみれば、更にはっきり分かってきます。**

**マタイ福音書 23章 7節**

**また、広場で挨拶されたり、『先生』と呼ばれたりすることを好む。**

**『先生』などと呼ばれたりすることを好む私たち、と言うのは誰しも心当たりがあるのではないでしょうか。私たち人間は、とかくこの世で注目されてちやほやされることに目移りしてしまいます。そして、先生、先生と誰からも持ち上げられて、人に寄って来られると、だんだんと、自分は他の人より優れた、ひとかどの人物であるとの勘違いをしてしまうものだと、イエス様は言われます。**

**そして、そんな風に持ち上げられている先生の周りをよく見てみますと、先生、先生と呼んでいる生徒たちも、実に喜んでその先生のそばに寄っているのです。**

**この様に、現実的に教師と生徒とが、怠慢と虚飾と虚栄心によって交わっていくということによって、そんな教師と生徒との相互作用によって、律法学者たちやファリサイ派の人々のような教師たちは生み出されていくのです。**

**そんな教師と生徒とが入り混じった世界を、その中にいる当事者である教師一人、生徒一人が見定めることはなかなか出来ません。その世界を見極めることが出来るのは、その有様を外から見ておられる、まことの教師であるキリストただお一人なのです。**

**イエスさまは、学びの場が、組織的・構造的に堕落していき、怠慢と虚飾と虚栄心と有言限不実行に満たされてしまうという成り行きをちゃんと見据えておられました。**

**しかしながらイエス様はこの時、「相応しくない律法学者たちやファリサイ派の人々はモーセの座から降りてしまえ」とは言われませんでした。むしろ生徒である、群衆や弟子たちに向かって、危うい教師たちに注意しなさいと警鐘を鳴らされました。このイエス様の教えは、まことに神の知恵に満ちた賢い教えとして私たち人間の心に突き刺さることでしょう。**

**イエスさまは、この様にまことの教師として、まことの教えを私たち人間に教えて下さいました。そして数日後には、ほとんどすべての人間の反感と憎しみを買って、十字架に付けられてしまいました。十字架に架けられたイエス様を見て、彼を先生と呼んだ人は、何人かの例外的な人を除いては居なかったのでした。そして、こんな風にまことの教師が、十字架に架けられ葬り去られるということは、当時の世の中において、学びの場がゆがめられ堕落をしていたことのあかしなのです。**

**私たちは、今、この地上に生かされ、十字架の死からよみがえられた、まことの教師であるイエス様の御言葉を聞くという、これ以上にない幸いに入れられています。**

**私たちは、この地上での教師／生徒という区分をひとまず取り払って、全ての人に宣べ伝えられた、次のイエス様の真実の御言葉を心に留めて忘れることなく、これからの日々を歩んで行きたいと願います。**

**マタイ福音書 23章11-12節**

**あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。**

**だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。**

**イエス様と共に歩む、皆様の生活の一瞬一瞬がイエス様に喜ばれ、守られ、祝されますようお祈りいたします。**

**祈り**

**父なる神よ、私たちは全て、あなたの子どもであり、生徒です。どうか私たちが御子イエスにお仕えし、日々学びながら、へりくだって歩む生活を送らせて下さい。**

**どうか、今建てられています、教師たちを祝福してお守りください。あなたの慈しみとまことに恵まれ、御子イエスを指し示すその務めを、最後まで全うさせて下さい。**

**どうか私たちに日々の糧をお与えください。肉の糧を、この地の全ての方々にいきわたらせて下さい。戦闘地域に居られる方々が、どうかあなたによって癒されなぐされますように。**

**どうか私たちに日々、御言葉の糧をお与えください。御子イエスの御言葉によって私たちを温め、隣人愛を行うことが出来るようにして下さい。**

**この地に建てられている全ての学校を覚えます。どうかそこで教え、学ぶ全ての者たちの心を治めて下さい。もしそこに罪があるならば、どうかその罪に気づかせ、悔い改めることが出来るようにして下さい。あなたの慈しみとまことのうちに安らぎつつ、あなたの知恵と平和を身に着けていくことが出来ますように。**

**全ての暗き思いと行いから私たちを解放し、御子イエスの正義へと導いて下さい。**

**父と聖霊と共に**